

東京 新宿キャンパス 授業アラカルト・秋の造形展(宝塚キャンパス)

### 番外編

# 授業アラカルト 「モーツァルト研究の世界的権威」



本学講師の海老澤 敏先生が  
(新宿キャンパス)の『文化功労者』に選ばれました!

これまでの研究、これからのご抱負、そして授業「映画音楽」「音楽史」「音響概論」「音響心理学」についてお話をうかがいました。

本学の東京メディア・コンテンツ学部で「映画音楽」「音楽史」「音響概論」「音響心理学」の4科目を教えてくださっている海老澤敏先生がこのたび文化功労者に選ばれました。文化功労者は日本において文化の向上発達に大きく功績の大きな人に国から与えられるもので、文化勲章に次ぐ栄誉となっています。私たちの先生に文化功労者(音楽評論)がいらっしゃるなんて、素晴らしいですね。先生はモーツァルト研究では世界的に有名な人です。国立音楽大学長、日本音楽学会会長などを歴任され、現在も

新国立劇場オペラ研修所長として活躍されています。せつかくの機会ですから、先生のこれまでのご研究、これからの抱負、そしてみなさんへの授業について、駆け足でおうかがいしました。みなさんへの授業にはたっぷり時間をかけてくださっていますが、とてもお忙しい様子です。じつは、このインタビューも先生がタクシーで通勤される間、携帯電話におかけしてお話をうかがいました。

このたびはおめでとうございます。先生のお書きになったものをインターネットで調べましたら、単著が32冊以上、編著・共著・共編著と監修が33冊、翻訳14点(20冊)、オペラ対訳11冊、その他論文多数。あわせて100冊近いという大変な数にのぼります。なかでも25年の歳月をかけて翻訳・編集された3500頁におよぶ「モーツァルト書簡全集全6巻」(白水社)は世界的にも有名だそうですね。

### 世界的偉業!! 「モーツァルト書簡全集全6巻」

■海老澤先生  
モーツァルトの手紙は彼の音楽、人物像を知る上でとても重要なものとされています。これまで残されているのは400通弱ですが、日本ではそのうち100通台ぐらいしか訳されていませんでした。また、

彼の音楽上の指導者であり、よき教育者でもあった父親と、神童といわれた彼との心理的、精神的葛藤、対立というか、対決は教育を考えると、人間ドラマとしても大変興味深いものです。父親もまたレターライターでいろいろな手紙を息子に書きおこなっていますが、従来はまったくと言ってよいほど訳されていませんでした。この全集にはモーツァルト父子のすべての手紙が訳され、日本人向けに整理され、注釈も完備しています。世界的に見ても翻訳された全集はほかにフランス版があるだけですが、きめの細かさでは日本版がすぐれていると自負しています。

アジアでは日本は飛びぬけてモーツァルトの愛好者が多いのです。最近、韓国でもモーツァルトファンが増え始めていますが、中国などではモーツァルト関係の書物は2、3冊くらいしかありません。



### 秋の造形展(宝塚キャンパス)

金賞 2年 坪田和紗 「よしかど」  
石膏直付けによる頭像制作という地味な課題だが、2年生4名は夫々よく食らいついで上質な作品を展開出来たと評価している。坪田さんの「よしかど」はモデルの骨格を良く観察出来ていて品性高く表現されている。これもまた芸術家の大切な資質のひとつです。

金賞 2年 加世田悠祐 「ただ見上げれば、そこに」  
癖のある大理石を選んで頭像を磨ぎ上げた自由制作作品。課題の頭像に与えても良かったのだが、課題消化後に3ヶ月を費やして制作した頭像を評価したい。加世田君自身、この制作を通して学ぶところが多かったのではないだろうか。こうした積重ねこそが君を大成させるのだと信じてほしい。

金賞 1年 矢田部泰輔 「核」  
初めての彫刻制作・石彫制作とは思えない出来映えである。他の学生とは各駅停車と特急電車に制作進捗度が異なっていた。高校時代にのめり込んでいた「バトミントン部活」で培った粘りと集中力と創意工夫が役立っていたのだろうか。格別に暑かった夏休みを返上して打ち込んだ甲斐が報われましたね。拍手

### ファッション



4年 笠原京子 3年 佐藤友梨子 2年 中島 瑛 1年 原田美喜

### 4作品とも本人のコメント

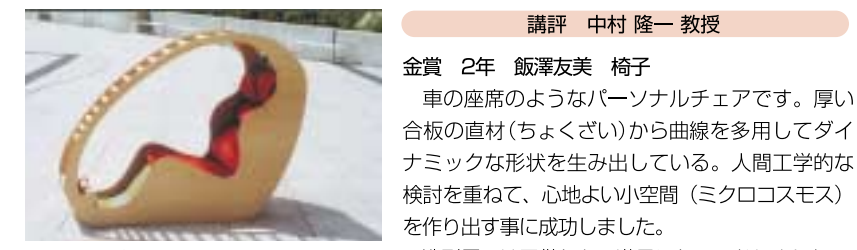
4年 笠原京子 コート タイトル:ハードコートドレス  
ハードな質感の布やレザーのベルトを使用し、ウエストのギャザーとドロップ ショルダーで女性らしいコートドレスに仕上げました。ファスナーの開閉によりカラーの大きさが変えられるのが、デザインポイントです。

3年 佐藤友梨子 プライダルウェア タイトル:華  
誰もが一度は着てみたいと思うようなフィット アンド フレアのウェディングドレスを制作しました。銀糸が入ったレースやパールトリミングで華やかなドレスに仕上げました。

2年 中島 瑛 ワンピースドレス タイトル:お花畑  
お花畑にいる少女をイメージし、ワンピースドレスをデザインしました。白と花柄の布を使い、ボリュームのあるティアードスカートで、かわいらしさを表現しました。

1年 原田美喜 スカート&コーディネート タイトル:チェス  
チェス盤をイメージし、白と黒の布を組み合わせたハイウエストのスカートです。コントラストを強調するために切り替えの部分の縫い合わせに神経を使い、ボタンをアクセントにしました。

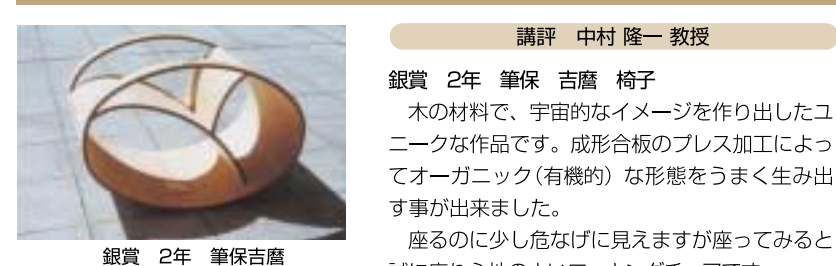
### インテリアデザイン



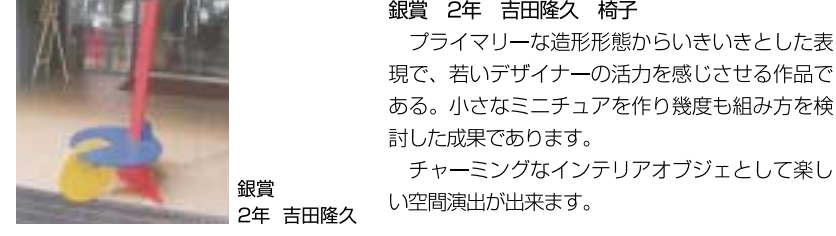
金賞 2年 飯澤友美

講評 中村 隆一 教授  
金賞 2年 飯澤友美 椅子  
車の座席のようなパーソナルチェアです。厚い合板の直材(ちよくざい)から曲線を用いてダイナミックな形状を生み出している。人間工学的な検討を重ねて、心地よい小空間(ミクロコスモス)を作り出す事に成功しました。造形展では子供たちの玩具になっておりました。

### プロダクトデザイン



銀賞 2年 筆保吉慶



銀賞 2年 吉田隆久

講評 中村 隆一 教授  
銀賞 2年 筆保 吉慶 椅子  
木の材料で、宇宙的なイメージを作り出したユニークな作品です。成形合板のプレス加工によってオーガニック(有機的)な形態をうまく生み出す事が出来ました。座るのに少し危なげに見えますが座ってみると誠に座心地のよいロッキングチェアです。

銀賞 2年 吉田隆久 椅子  
プライマリーな造形形態からいきいきとした表現で、若いデザイナーの活力を感じさせる作品である。小さなミニチュアを作り幾度も組み方を検討した成果であります。チャームなインテリアオブジェとして楽しい空間演出が出来ます。

### 舞台芸術

講評 上海 太郎 教授  
3年 課題公演「ペニスの商人」

「このクラスはタレントは揃っているが、リーダーが不在…」そんな前評判をくつがえすように演出の磯谷小夜子と演出助手迫田修治が頑張った。ポーシャ役の松島あゆみとシャイロックの三嶋亮太が安定した演技で全体をひっぱり、スタッフを束ねる舞監の高橋志帆が舞台転換にカツを入れた。バサーニオの須藤、ネリッサの稲垣、グラシーノーの志村らも好演。美術、照明、音響も含め完成度の高い舞台になった。

講評 宮井 市太郎 教授  
金賞 1年 近藤 綾 「夕鶴」の舞台デザイン

「演じやすい空間」「照明の演出を最大限に生かす」この二つのねらいを具体化した作品。見やすく劇の流れをスムーズに進めることが重要と考え、シンプルな空間にまとめている。鶴が布を織る姿は、シルエットで障子に表現するなど、観客の想像を引き出す演出空間がなされている。

銀賞 1年 橋本じゅん 「夕鶴」の舞台デザイン

民話劇の「夕鶴」からはちょっと創造出来ない舞台空間である。男女の不確実な愛がテーマのこの劇を、ポップで色鮮やかな世界の空間で展開したいという作者の意図がストレートに表現されていて、少しシュールな雰囲気も合わせ、魅力のある舞台空間になりそうだ。オペラやミュージカルの舞台としても使える作品である。

#### 学生演劇の新たな試みを!

今年の舞台芸術コース卒業制作公演は、全8団体による30日間の日替わりロングラン公演を実施します。卒業制作展での学外ロングラン公演は、舞台芸術コース創設以来初の試みです。ミュージカル、ストレートプレイ、1人芝居、ダンスショーなど、ジャンルもバリエーションも豊かな演出で「舞台」の魅力伝えていきます。舞台芸術コースで培った技術、表現方法を駆使し、学生演劇という枠を良い意味で覆そうという意気込みで取り組んでいます。私達の4年間の集大成を、是非ご覧下さい。

期間 2007年12月3日~30日  
会場 ロクソントラック  
大阪市阿倍野区阿倍野2-4-45  
http://www.thekio.co.jp/foxodonta/  
チケット ¥500  
マンスリー共通バス ¥2000  
(期間内、全公演観覧にたけがけフリーパスです)  
問い合わせ チケット取扱い  
violet\_fox@wish.ocn.ne.jp  
卒業制作特設サイト  
http://greedy1.web.fc2.com/

### キャンパスピックアップ

## 芸術情報学科にウェブ・モバイルメディアコース 2009年に誕生。無限に広がる携帯電話の世界をキミに!あなたに!

携帯電話の世界は無限に広がる! 広がりが続く! 世界でなんと5億台、日本では二人に一人は持つ1億台。しかも、今でも増えつつあり、進化し続ける。若者の文化、新しい文化がある。携帯電話は、単なる便利な通信手段でなく、携帯電話のなかにもう一つの世界を存在させるまでになった。この世界には、ショッピングモール、ゲームセンター、アニメ、ミュージックが溢れ、携帯小説までもがあり、それらは日進月歩、進化を続けている。やがては携帯芸術が出現するであろう、と予想されている。この世界の大きな特徴は、進化を受ける者は若者、進化したエネルギーも若者が提供していることにある。本学は、この進化を担う人材を育成することを目的に、ウェブ・ホームページデザインコースをウェブ・モバイルメディアコースに改組する。カリキュラムの内容は、単に芸術的な感性が溢れた携帯電話用のコンテンツ制作だけでなく、携帯電話の世界に携帯芸術を展開できるように将来を見据えた人材を輩出するため、カリキュラムはCGデザイン、ハイパーテキスト演習、データベース論などの従来のウェブコンテンツ制作に関わるものに、携帯コンテンツデザイン、携帯メディアマネジメント、携帯コンテンツ制作などの

芸術情報学科長・志水 英二





作曲家の人柄や性格、考え方をすることは作品鑑賞にどんな関係があるのでしょうか？

### 作り手の生き様と作品は切り離せない

#### ■海老澤先生

私の学生時代、もう50年以上前ですが、そのころの音楽観は「自律主義」といって作品は作品そのもので鑑賞し、論じるべきだという考えでした。でも、私はそのころから、こうした考えかたに反対でした。作り手の生き様と作品は切り離せないと思います。ひとつひとつの作品の背景や、いわれ、を知り、本人の生き方をたどることが作品への理解と味わいを深めるのではないのでしょうか。

モーツアルトの音楽をひとことで、キーワード風に表現してください。

### モーツアルトのキーワードは「爽やかさ」

#### ■海老澤先生

芥川龍之介、小林秀雄など、多くの方がモーツアルトの「かなしさ」「暗さ」。を強調してますね。私は、「爽やかさ」を言いたいです。彼には明るい音楽も暗い音楽もあるが、両方に共通するのは「爽やかさだ」と。

先生は音楽教育者としてのお顔もお持ちです。これからの音楽教育についてのお考えを聞かせてください。

### 日本に根づいた西洋音楽 伝統音楽を学校教育に取り入れることは大事 家元制度をどう調整するかが課題

#### ■海老澤先生

邦楽など日本の伝統音楽をもっと学校教育に取り入れるべきだ、という声が高まっていますね。明治時代から日本は西洋の音楽システムを取り入れてきました。西洋音楽への偏りが強いのは事実です。今後、バランスをとることは大事だと思います。ただ、西洋音楽はすっかり日本に根付いていることと、また、邦楽は家元制度など、学校教育になじみにくい一面があります。これをどう解決していくかも大きな課題ですね。

新聞によると、今後の大仕事としてフランスの啓蒙思想家ルソーの研究に取り組みたいとおっしゃっています。先生とルソーの組み合わせは意外な気がします。

### 惹かれるルソーの音楽 これからはルソー研究に取り組む

### モーツアルト研究の世界的権威

#### ■海老澤先生

私がルソーを知ったのは実は旧制中学時代です。「告白」「孤独な散歩者の夢想」など愛読しました。むろん、そのころは文学、思想家としてのルソーに傾倒したのです。早くからフランス語を熱心に勉強したのも、ルソーを原語で読みたかったからです。その後、彼が音楽家、そして音楽思想家としても素晴らしいことを知りました。彼はいくつもの音楽論のほか、音楽辞典まで書いています。オペラは上演もされました。単純でかわいい曲です。音楽家としてのルソーが世界的に知られず、本国のフランスでも評価が低いのは、当時の大作曲家で音楽理論家でもあったラモーと論争し、ラモーに「ど素人」といわれたのが原因のようです。しかし、音楽家としてのルソーは知れば知るほど惹かれます。決して素人ではありませんよ。音楽辞典まで出版しているのですから。私はルソーの音楽論をいくつも翻訳していますし、また2冊ほどルソー関係の本を出していますが、自分にしかできない仕事として、今後5年以内にルソーの最新研究を仕上げたいと思っています。

若々しく、何事も全力投球をする海老澤先生のイメージが浮かんできます。最後に本学の授業について、ひとことずつお話しくださいませんか。

### あまり専門的にならずに、広く興味をもてる授業を！

#### ■海老澤先生

「映画音楽」の授業は、映画と音楽の関係を勉強します。たとえば、モーツアルトを描いた映画「アマデウス」に使われた曲を素材に映画と音楽の相乗効果などを考えてみたいですね。演劇、お芝居の「アマデウス」はモーツアルトの曲がいじられています。映画はそのまま使われています。

「音楽史」は、西洋音楽を中心に音楽の歴史を振り返ります。今まで中世までを勉強しました。眼を輝かせている学生もおれば、まあ、居眠っている学生さんもいます。これは学生の皆さんは、高校時代に専門的なことを勉強されていないから、当然のことです。「音楽概論」「音響心理学」では、音とは何か、といったことを教えています。古代、あるいは古代以前にさかのぼって人間と音とのかかわりを幅広く勉強していきます。できるだけ、学問的、専門的にならずに、広く興味をもてる授業を心がけています。

先生の教育者としての歴史はずいぶん長いのでしょうか？

### 生涯教育の手伝いも

#### ■海老澤先生

私と教育のつながりは古く、東大の大学院生のころから他の大学で教えていました。そしていまは、大学以外の、朝日カルチャーセンターなどでも教えています。子育ての終わった女性、定年後の男性、みなさん、モーツアルトがお好きで、熱心に勉強なさっています。私もそのお手伝いをさせてもらっています。研究者が象牙の塔、というか、狭い大学の中に閉じこもっている時代ではないですね。



## 秋の造形展〈宝塚キャンパス〉(今回は二回に分けて掲載、残りは次号に掲載します。)

### 美術史・美術理論



金賞 4年 小山早紀 金賞 3年 池尻篤志 金賞 1年 北川恭衣

#### 講評 関隆志 教授

第1回目の卒業生を3月に送り出し、新しい1年生を4月に迎えた創設5年目の美術史・美術理論コースにとって、今年の秋の造形展は、コースのメタボリズム(新陳代謝)が機能するか否かを見極める、いわば試金石であり、心配もしたが、幸いにも杞憂に終わった。結果は期待に応えた見事なものであった。入学から半年が過ぎたフレッシュマンは、若さをぶつけて課題に取り組み、2年生は未だ手探り状態ながら、個性を見せ始めている。一方、3年生はプロフェッショナルの道を目指すものが現れ、その眼の色は明らかに変わり始めている。ただ、4年生は卒業論文に集中する時期に入ったため、一人を除いて作品制作は、来年2月の卒業制作展までお預けとなった。

北川恭衣(1年)が金賞を受賞した模刻「ミネルバ」と、同じく岡本麻路(1年)の銀賞受賞作は、甲乙つけがたいほどの力作でモデルの石膏レリーフのフォルムと微妙な厚みを見事に再現していた。2年生が修復(彫刻)の夏期集中講義の課題として取り組んだ、金箔を置いた果物・野菜作品には各々の個性が出ており、指導に当たった吉田直先生からも高い評価を得ていた。夏休みを利用して、修復現場での作業を志願した池尻篤志(3年)の金賞受賞作「菩薩像彩色復元」は、将来、修復家の道を歩むことを決めていることが、第三者の目にも理解できる意欲的な作品で、何よりも、丁寧な仕事ぶりが評価できる。同じく、銀賞を得た七理修(3年)の「欄間彫刻彩色復元模写」は、静ながら制作意欲を作品に表し始めた本人の自覚が感じられる良品である。最後に小山早紀(4年)の金賞受賞作品「李迪筆『芙蓉図』原寸模写」は、最上級生らしく筆遣いが巧みで、上品な作品に仕上がっている。卒論にラファエル前派の作家論を選び、卒業制作に伝統的な日本画技法の再現を試みようとしている小山にとって今回の受賞は、自分の選択の正しさを示す答えを得たことになるであろう。

金賞 4年 小山早紀 「李迪筆『芙蓉図』原寸模写」

金賞 3年 池尻篤志 「菩薩像彩色復元」

金賞 1年 北川恭衣 模刻「ミネルバ」

### 洋画

恒例の秋の造形展が開かれ、学生諸君の力作が展示された。1年生の素直な作品、個性が強く表れ出した2年生の作品、独創的な3、4年生の作品等、注目するものが多かった。来年度からは、兵庫県立美術館分館、原田の森ギャラリーで開催の予定である。(中村 貞夫)

#### 講評 中村 貞夫 教授

銀賞 4年 安井思生 「一角」

安井思生君の「一角」は円を中心とした幾何学形態の作品である。細い筆で描き込まれた細密な形の集中力は画面に強い緊張感を与えている。制作の途上で表れた自由な筆遣いの表現が消されているのは少し残念な気がする。

#### 講評 加藤 勝久 教授

金賞 3年 黒崎二美加 「痛ニ流シ」

現代社会の子供達に対する作品のイメージ表現です。中央に二人の子供＝人形を大きく配置し、周囲は様々な技法を用いて、金糞捨て場のような空間を描いています。特に左の子供の二ノ腕の質感はリアルで、その視線は見る者の心に迫る印象深い作品です。

#### 講評 西田 周司 教授

金賞 2年 大澤悠二 「白い箱」

前期の大澤君は大変忙しい時を過ごしました。具象から抽象へと課題をこなして多くの作品を描きながら3つの市展・公募展にも入選して客観的に自分を見つめて模索していました。この100号の作品で自分の求める形を掴んだようです。具体的に感じられるような確かな形体が在ります。窮屈にならない構図と地味ながら豊かな色彩を感じます。

#### 講評 高井 道夫 教授

佳作 2年 藤本あかり 「戯(いたすら)」

金魚鉢に手を差し入れた猫の瞬間の動作が的確に表現されています。金魚鉢の内側には風景が描かれています。その景色が、水中の金魚の視点からとらえた風景として、部屋の窓の外に展開されています。二つの風景が無理なく構成され、あたたかい色調の機知に富んだ楽しい作品になっています。



### 日本画



金賞 4年 石川澄美 金賞 3年 阪田智世 金賞 2年 今那阿佐美



銀賞 4年 梶原美紀 銀賞 2年 中川真一 銀賞 2年 橋田真季

#### 講評 曲子 明良 教授

金賞 4年 石川澄美 「girls」

躍動する女性群像を流れるような線で描いている。伝統的な日本画の描線と現代的なイラスト風の表現を融合させた作者独特の画風に一段と磨きがかかった秀作である。未完成のようだが十分に絵の内容は伝わってくる。完成した状態で見るのを楽しみにしている。

金賞 3年 阪田智世 「群」

羊の群れを正方形の画面にバランス良く収めている。羊毛の表現に胡粉を盛り上げて質感を出そうとしている。ブルーとベージュの色感も美しく爽やかな作品となっている。時間を懸けて描いた力作である。

金賞 2年 今那阿佐美 「その先に見える物」

作者の家では猫を何匹も飼っているようだ。多分、子供の頃から猫と共にある生活が家の空気になっていたのであろう。そんな愛情が感じられる作品である。ただ写生がちちょっと未熟で物足りないものでこれからの課題としてほしい。

銀賞、佳作作品では、

梶原 美紀 4年 「染まる刻」 都会の静寂を夕焼け空で表現。

中川 真一 2年 「サクラノキオ」 昔日の情景を叙情的に表現。

橋田 真季 2年 「ひだまり」 まどろむ少女を色彩豊かに表現。

上中 哲士 2年 「古びた車庫」 農家の軽トラックを素直に描写。

増田喜代美 2年 「あきベンチ」 ベンチに晩秋の寂寥感を託す。

その他、未完成ながら可能性を秘めた作品が数点見られた。次回作品に期待する。

### 彫刻



金賞 4年 堀 拓馬 金賞 3年 上西琢也



金賞 2年 坪田和紗 金賞 2年 加世田悠佑 金賞 1年 矢田部泰輔

#### 講評 市川 悦也 教授

金賞 4年 堀 拓馬 「呪縛」

関西国展に出品して関西国画賞を受賞している。しかし支柱にデコレーションされていた鉄片が除去されていて牛頭をスッキリと見せる事が出来ていた。制作過程では思いつく限り何を試行しても良いのだが、発表する時点では作品を通して「何を見せたい(語りた)のか」を客観的に再検討する必要がある。彫刻制作作業そのものは、幼児期の工作作業同様に楽しく夢中に集中出来れば纏まるものであるが、自分の中に「客観性」を育成出来るかどうか芸術家として一歩踏み出せるか踏み出せないかの分岐点となるのです。感性を磨くとはそういうことです。

金賞 3年 上西琢也 「ケーニヒ」

単に課題制作を消化するといった姿勢から数歩先を歩んでいる。関西国展に小作品を出品し入選してから一皮剥けた様に見える。今後の成長を見詰め続けたい学生の誕生と言えよう。